

き状態にあるは、侵入説を確むる材料であると此の説の學者は説明して居る。次に帽岩の成因に就ては前説と同様に循環水に由る變化物と考ふる人もあれど、又、鹽、硬石膏は他の水成岩と共に成層沈澱せるものと解し、石膏、石灰岩及び硫黄は硬石膏の變化物と考へて居る人もある。

因に沿海油田の鹽丘に就ては一九二五、二六のアメリカ石油地質學會の會報 *Bulletin of the American Association of Petroleum Geologists* に數多の論文發表されあるを以て參考とせられたい。

新著紹介

○東京近郊史蹟案内

一高史談會著
東京古今書院發行
定價 一圓九十錢

一高の學生が組織せる一高史談會はさきに『東京郊外篇』といふのをだして、史蹟を探ぐる人々に其道の楽ともなれよと公刊してゐたが、今度それを訂正増補して全く面目を改めて史蹟案内としての手頃な一本となつて世に現はれた。恰も京都大學國史研究室の學生がさきに京都史蹟案内を出版したのと符説を合するといつたものである。ホケツト形三百頁の持あつかひのよいもので、史蹟踏査の際拂へて以て昔を知り行を尋ねるに都合がよい、範圍は東京を中心として川越までの距離を半徑とした圓内の地域に存する史蹟勝地の説明で、挿圖があり寫眞がある、近郊地誌關係書目、數十冊の解説を施して、更らに深く研究する人の爲めの手引となせる、特別保護

○多摩御陵附近の地誌

田中啓爾著
古今書院發行
昭和二年五月五日發行
定價 九十一錢

建造物圖寶目錄を附加せる、索引年表の類まで添へてあるなど餘程親切な案内記である。(藤田)

菊版八十五頁の小冊子である。しかして三宅博士、山崎博士の推獎の序が四頁ついてゐる。三宅博士は歴史の大家で、山崎博士は地理の大家である。著者は文檢試驗委員で地誌特に人文地理の方面に一隻眼を具へた大家である。こゝにいへばこの本が尋常のものでないことがわかるであらうと思ふ。

大正天皇の御陵の新たに出來た、この關東の靈域を地理學者の手によつて地理學的に世に紹介せられるといふことは、誠に時宜を得たものであらう、この書を指針として地理學に志す人は、いかに地理を觀察すべきかといふことを教えられることの多大なるを思ひ、この機會に著者に深甚の敬意を表白したい。(藤田)